

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2001. 7

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 207

日本野鳥の会 埼玉県支部

シロハラチュウシャクシギの報告

海老原美夫(さいたま市)

4月中ごろの1週間、ハンガリーに鳥見の旅にでかけ、とんでもないものを見てしまった。シロハラチュウシャクシギ!! と言っても、なんのこっちゃという人が多いと思う。そこで、じっくりとご説明からはじめて、ゆっくりとご報告まで。

●シロハラチュウシャクシギって、何?

英名: Slender-billed Curlew

学名: *Numenius tenuirostris*

分類: チドリ目シギ科ダイシャクシギ属

全長: 41cm。日本でも普通に見られるチュウシャクシギとほぼ同じ。

『コンサイス鳥名事典』(三省堂)によれば、シベリア南西部で繁殖すると言われていたが、巢は1例しか報告されたことがなく、詳しい生態等は不明。

冬は南ヨーロッパや北アフリカに渡るが、その数は大変少ない。

今回の旅の講師兼ツアーガイド、日比彰氏が帰国後著した『ネイチャリングクラブニュース、No. 35』と同人からの伝聞によれば、「かつて定期的越冬地として知られていた北アフリカのモロッコ、メルジャ・ゼルガでは、1994年以降は信頼できる観察報告はない。

もうひとつの定期的越冬地として知られていたのが、ハンガリー。ここでも1996年を最後に、長く記録が途絶えていた。

1995年にイタリア南部で20羽ほどの群れが発見されて大きな話題になり、バードライフ・インターナショナルからは、見に行かないようにとの要請が、わざわざ全世界に流された。しかし、その地でのその後の状況はまったく不明。

昨年、繁殖地を発見しようとカザフスタンから西シベリアにかけて大々的な調査をしたが、結局1羽も発見できず、もう絶滅宣言をして、その調査費用などを、別の種の保護などに振り向けたほうが良いのではないかと言う意見まで出始めていた」とのこと。

日本では、迷鳥として1度だけ2羽採集された例があるということで、『フィールドガイド日本の野鳥』(日本野鳥の会)には掲載されているが、実はこの標本の採集場所は日本では

なかったのではないかという人もいるとか。ともかく不明なことが多い鳥なのだ。

●電波発信機の開発は、この鳥のため

かつて当支部の幹事として、入間川の探鳥会などを担当していた三田長久氏を覚えている会員は多いと思う。

彼は当時NTTの研究者として、後にオオワシの渡り経路の調査研究などに大きな力を発揮した衛星利用の超小型電波発信機の開発に携わった。

現在熊本大学の教授になっている彼に、数年ぶりに再会したのが、今年5月のゴールドンウイーク、対馬でのこと。

どういう話の流れだったか覚えていないが、私がハンガリーでシロハラチュウシャクシギの撮影をしてきた話をしたところ、「えっ、実は……」と、発信機の開発はもともとシロハラチュウシャクシギの調査のためにはじめられたものであり、ところがその個体数があまりに少なく実際に調査できず、オオワシなどに転用されるようになったとのこと。なんとまあ、そうだったんですか。

●ここからようやく今回の旅のご報告

首都ブタペストの南に広がる草原地帯のキシクンサグ国立公園。

広大な牧草地や湿地には、毎年数百万羽のエリマキシギが立ち寄る。

その時の一行は、前記の日比彰氏、旅の全行程の鳥ガイド、オラー・ヤノシュ氏、その地域での鳥ガイド、ピニキ・チャバ氏、それに我々夫婦とほかに2名のツアー参加者、合計7名。

4月15日は朝からよく晴れ渡っていたが、風がなくてもやががあり、なぜかフィールドスコープのピントが合わない。

したがってスコープを通して撮影する私のビデオカメラも、ずっと画面はもやもや状態。今日の午前中は撮影は無理と、ほとんどあきらめ気分で歩いていると、上空をシャクシギ類が飛んだ。一見してダイシャクシギっぽいのが、やけに嘴が短い。

ダイシャクシギのヨーロッパ亜種は、日本で見られる亜種より嘴が短く見えることを前にフィンランドで経験していたので、そんなものかとのん気に構えていたが、現地ガイド2人の目の色が変わった。

それぞれのスコープを抱えて、懸命に追いかけている。まさかと思ったシロハラチュウシャクシギとの出会いだった。

数十m先の草原をほとんど首だけ出して歩く姿をビデオカメラで追い始めたが、相変わらずピントは合わない上に、少し右に傾いた強い逆光状態。普段ならスイッチは押さないようなひどい画面だが、とにかく撮影開始。この時、午前11時2分。正味1分3秒撮影したところで飛び立ち、その瞬間を静止画面にしたのがこれ。



●その特徴は

こんなぼけぼけ写真でも、いくつかの特徴を見ることができる。

本種が一番の特徴は、英名と学名の種小名にある「細い嘴」。

右の写真はさいたま市大久保農耕地で撮影したチュウシャクシギ。この嘴は比較



的長くて太く、もともと途中まではほぼ直線的で、先のほうに行くと湾曲している。

それに対し、シロハラチュウシャクシギの嘴は細くて短く、もともと先まで一様に湾曲していて、その湾曲度は小さい。

翼下面は全体的に白く、初列風切の外側半分が黒いことも見て取ることができる。

静止画では逆光のため頭から首、胸が黒く見えるが、実際は全体的に白っぽい色で、特に目立つ模様などはない。

情報は直ちに携帯電話で流されて、その日のうちに十数名、翌日までに合計50名以上の鳥見人が駆けつけたが、当日午後3名が見えただけだったとか。

その日から、夜ホテルに帰ると、駆けつけた関係者とともに映像をチェックしたり、静止画をパソコンに取り込む作業が続いた。

正式には6月に開催されるハンガリーの記録委員会の検討を待たなければならないが、一度は保護の対象からはずされそうになった本種も、保護すべき絶滅危惧種のカテゴリーに残されることになりそうだ。

●世界のシャクシギの仲間

山階芳麿著『世界鳥類和名辞典』によれば、チドリ目シギ科ダイシャクシギ属の鳥は、コシャクシギ、エスキモーコシャクシギ、チュウシャクシギ、ハリモモチュウシャクシギ、シロハラチュウシャクシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、アメリカダイシャクシギの8種。別にライフルリストを競うつもりはないが、これでそのうち7種を見たことになる。

残りのエスキモーコシャクシギ1種は、いまだにごくまれに観察報告があるので、完全に絶滅したのではないらしいと言われている鳥。これを見るのはまず無理だろう。

それとほとんど匹敵する、あるいはより難しい今回のシロハラ・・・との出会い、どんなぼけ映像でも、とにかく撮影できたことの幸運をあらためて感じている。

それともうひとつ。身近なチュウシャクシギなども、嘴の曲がり方までじっくり見ておくことが、実は大切なんですね。

その他のハンガリーの鳥たちなどもご紹介しています。

<http://23.tok2.com/ebi/>

日本野鳥の会埼玉県支部規約

第1章 総則

第1条 (名称) この支部は財団法人日本野鳥の会 (以下本会と称す) の寄付行為31条に基づき設立され、日本野鳥の会埼玉県支部 (以下支部と称す) と称する。

第2条 (事務所) 支部は事務所を埼玉県さいたま市岸町4丁目26番8号ブリムローズ岸町107号室に置く。

第3条 (目的) 支部は自然にあるがままの野鳥に接して楽しむ機会を設け、また野鳥に関する科学的な知識及び、その適正な保護思想を普及することにより、県民の間に自然尊重の精神を培い、もって人間性豊かな社会の発展に資することを目的とする。

第4条 (事業) 支部は第3条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 探鳥会その他の催し物の実施
2. 野鳥等の調査、研究
3. 野鳥を中心とした自然保護に必要と認められる諸活動
4. 支部報その他の出版物の刊行及びその頒布
5. 会員相互の親睦、品位保持、向上に関する施策
6. その他支部の目的を達成するために必要な事業

第2章 会員

第5条 (構成員) 支部会員は原則として埼玉県内に居住する本会の会員で構成する。

第6条 (会費) 1. 会員は総会において定める会費を納入しなければならない。

2. 会員の資格を失った時、既に納めた会費の返還はしない。
3. 会員の種別と会費、入会金は次の通りとする。

個人特別会員 本会会誌『野鳥』と支部報『しらこぼと』を購読する会員
年会費12,000円 (本会会費10,000円、支部会費2,000円)
入会金なし

総合会員 本会会誌『野鳥』と支部報『しらこぼと』を購読する会員
年会費7,000円 (本会会費5,000円、支部会費2,000円)
入会金1,000円

支部型会員 支部報のみを購読する会員
年会費3,000円 (本会会費1,000円、支部会費2,000円)
入会金1,000円

家族会員 個人特別会員、総合会員又は支部型会員の家族
年会費500円 (本会会費500円、支部会費なし)
入会金なし

4. 会費の内本会会費については、本会の規定による各種割引制度の適用もある。

第7条 (入会) 会員になろうとする者は入会申込書、会費及び入会金を添えて本会または支部に提出しなければならない。

第8条 (退会) 1. 会員が会費を滞納したときは、退会となる。

2. 会員が本会及び支部の名誉を著しく傷つけ又は本会及び支部の目的に反する行為のあるとき、あるいは本会及び支部の存在を害する虞のあるときは、役員会の決議を経て退会させることができる。

第3章 役員

第9条 (役員) 支部には次の役員をおく。

- 支部長 1名
- 副支部長 3名以下
- 幹事 若干名
- 監事 2名

第10条 (役員) 1. 役員は総会において、個人特別会員、総合会員又は支部型会員の中から選任する。

2. 支部長、副支部長及び監事は役員互選による。

第11条 (役員) 1. 支部長は支部を代表し業務を総理する。

2. 副支部長は支部長を補佐して業務を掌理し、あらかじめ支部長が定める順位により、支部長が事故あるときはその職務を代行する。

3. 幹事は役員会を構成し支部の業務に関し審議決定し、役員互選により会務を分担し事業の遂行をはかる。

4. 監事は、民法59条の職務を行う。

第12条 (役員) 1. 役員は任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

2. 役員は任期終了後も後任者が就任するまでその職務を行う。

3. 補欠による役員は前任者の残任期間とする。

第13条 (役員) 1. 役員が支部の役員として不適当と認められる時は役員会の3分の2以上の議決又は総会においてこれを解任及び補欠することができる。

第14条 (評議員) 本会の評議員として役員の中から1名互選する。

第15条 (顧問) 1. 支部には必要に応じて顧問を置くことができる。

2. 顧問は役員会の承認を経てこれを委嘱する。

3. 顧問は支部の事業について役員会に助言を与えることができる。

第4章 会議

第16条 (総会) 1. 総会は個人特別会員、総合会員又は支部型会員をもって組織し、通常総会は毎年1回5月又は6月に開くものとする。

2. 臨時総会は役員会が必要と認めるとき又は個人特別会員、総合会員、支部型会員の3分の1以上から会議の目的を示して請求があったとき、開かなければならない。

3. 総会を召集するには少なくとも開催日の7日前には会議の日時、場所、会議の目的を示して会員に通知しなければならない。

第17条 (総会の議決) 1. 総会の議事は出席者の過半数で決し、可否同数の場合は議長が決すところによる。

2. 支部規約の変更は出席者の3分の2以上をもって決する。

3. 支部の存在に関わるほど重大であると判断される事項については、会員全員の意思を十分に反映できる方法を考慮しなければならない。

第18条 (総会の議決事項) 総会では次の事項を議決する。

1. 規約の変更
2. 役員を選任及び解任
3. 事業計画、事業報告、予算、決算の承認
4. その他支部の運営上特に必要な事項

第19条 (役員会の開催、成立) 役員会は、支部長又は役員2分の1以上が必要と認めるとき、開催される。

第20条 (役員会の議決) 役員会は本規約で定められたもの他、会務執行に関する事項その他の事項を議決して処理する。又その議決は第17条の規定を準用する。

第5章 資産及び会計

第21条 (資産及び運用) 支部の資産は次の通りとし、経費その他に運用する。

1. 設立当初、支部設立準備会から継承されたもの
2. 会費及び寄付金
3. 事業から生ずる収入及びその他の収入

第22条 (事業及び会計年度) 支部の事業及び会計年度は1年として、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 委員会及び部

第23条 (委員会及び部) 1. 支部は会務運営ならびに第4条の事業遂行の為、必要な委員会及び部を設けることができる。

2. 委員会及び部の設置及び廃止は役員会で決議する。

第7章 分会

第24条 (分会) 支部は目的推進のために支部会員で構成された分会を役員会の承認により設置又は廃止することができる。

第8章 その他

第25条 この規約を定めない事項については、本会の寄付行為の定めるところによる。

附 則

第26条1. この規約は、本会理事会にて支部設立の承認のあった日 (昭和59年4月24日) から施行する。

2. 支部設立初年度の役員は、第10条の規定にかかわらず、設立準備会において決定された役員とする。

3. 支部設立初年度は、以上の規定にかかわらず、第1回役員会をもって総会にかえる事ができる。

(変更: 昭和62年6月7日・平成6年6月26日・平成12年6月25日)

白馬探鳥会に参加して

松本 純 (さいたま市)

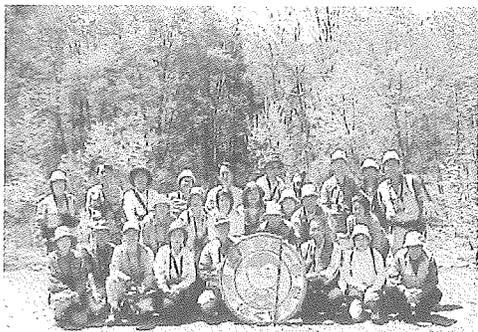
2001年春の白馬探鳥会に、5月12日、13日の両日参加しました。前日は、何十年も前になってしまった遠足を待つ小学生の気分になり、ワクワクしながら早目に就寝。日頃の行いが良いせい、初日はまさに5月晴れの快晴。午前中の居谷里湿原では早速オオルリが出現し、今回の探鳥会の成果を予想させるスタートでした。

定麟寺周辺での昼食もそろそろ終わる頃、突然、ペンションのオーナーであるW氏が、「そこ、そこにヒメギフチョウがいる！」と大声を出したので、その様な名前の鳥はいたかなと乏しい記憶を辿りつつ探したが見つからずにいると、更に「そこにヒラヒラ飛んでいる。森林の女王や」と言う。ヒラヒラ飛ぶ森林の女王と呼ばれる鳥とは何だろうと不思議に思っていると、更に「そこに飛んでいるチョウチョや」の声。

同じチョウでも“鳥”ではなく、“蝶”であったとは。正に、ヒメギフチョウは森林の女王と呼ばれるのに相応しく美しい、優雅な蝶でした。

移動の時間になっても、その場所を去り難くウロウロしていると、又も同じ蝶を発見。騒いでいるとリーダー曰く、今度の蝶はギフチョウとのこと、短時間でヒメギフチョウ、ギフチョウの両方を見ることができたのは非常にラッキーと言われ、益々良い気分になる。

午後は白雪に覆われた北アルプス連峰をまづかに見ながら、鳥プラス草花の観察。特に



2001・5・12～13 白馬探鳥会

スマレの種類之多さにはビックリ（名前、殆ど記憶になし、老化現象を自覚）。鳥、蝶、樹木、野草・花、と全く今回の探鳥会は勉強になりました。

2日目も快晴で、朝5時に探鳥に出発（日頃寝起きの悪い自分が、探鳥会となると自然に気持ち良く目が覚めるのは、誠に不思議）。オオルリ、コルリ、サンショウクイ、クロジ、クロツグミ、ハチクマ、等珍しい鳥達を観察。特に、陽を浴びたコルリの瑠璃色の美しさ、コサメビタキの愛くるしさ、サンショウクイの優美さに、感激。

最後にカワセミも現れて、探鳥会をしめてくれ、観察できた野鳥の数は62種類という充実した2日間でした。

戸隠探鳥会の思い出

岩崎ますみ (新座市)

フィールドで熟練の先輩方と鳥を待つ緊張感は格別なものです。今回の戸隠の探鳥会も、オオジシギのディスプレイ・フライトを見ようという時間はとても楽しいものでした。

待つ事10分、オオジシギのザザザという尾音が闇夜の草原に響き渡り、気分は高まります。辺りも明るくなってきて、結果的にはオオジシギの姿を見る事は出来ませんでした。場所や時間など野外での知識が広がりました。

戸隠は、探鳥地で有名ですが、イヌワシ、マミジロ、ノジコなど57種が次々と出現して楽しませて下さいました。

探鳥会へ出掛ける時は、なんでも見せて頂ける鳥を見てこようと、欲の無い事を考えておりましたが、自己のリストが3種も増えてやっぱり嬉しいものです。戸隠は、鳥の他、花、蝶、哺乳類など楽しみはつきません。

このような美しい自然が今の時代まで大切に守ってこられた事を改めて感謝し、更なる継承の為にもう一度、日々の生活で私に出来る事から真剣に取り組んでいきたいと思いました。

(▶ 9ページもご覧下さい)



鴻巣市登戸 ◇2月12日、自宅のすぐ前の田んぼでオオタカがハトらしき鳥を食べていた。カラスにモビングされて、屋敷林の方へ飛んでいった(石井智)。

JR熊谷駅 ◇3月22日朝、イワツバメ初認(森本國夫)。

川本町荒川 ◇3月24日午前9時30分~11時30分、明戸堰上流でトラツグミ1羽、ベニマシコ♂1羽、ミヤマホオジロ多数、アトリ1羽、シメ3羽、オナガ数羽、コハクチョウ約50羽他計37種(後藤康夫・喜久子)。

秩父市羊山公園 ◇3月24日、ガビチョウ計4羽。ただの籠抜けではなく、いつているのかも(浅見健一)。

東松山市都幾川リバーサイドパーク ◇3月25日午後2時~3時30分、イカルチドリ2羽、バン2羽、アカハラ1羽、ツバメ2羽、カシラダカ数羽、アオジ3羽、カワセミ2羽他計29種(後藤康夫・喜久子)。

渡良瀬遊水地 ◇4月7日午後5時頃、第3調整池の上空をサシバ1羽が飛び、林内へ。枝にとまったところをプロミナで見ようとしたらサッと姿を消した(鈴木紀雄)。

嵐山町 ◇4月14日午前7時~9時、菅谷館~都幾川の間でタシギ1羽、クサシギ1羽、コチドリ2羽、イカルチドリ数羽、クイナ2羽、オシドリ♂♀各1羽、タヒバリ数羽、カワセミ3羽他計35種(後藤康夫)。

皆野町美の山公園 ◇4月15日、センダイムシクイのさえずり、2~3ヶ所で確認。ト

ラツグミ2羽、ウソ(後藤康夫、北村隆、澤井清)。

玉川村雀川ダム付近 ◇4月15日、サシバ2羽、上空を旋回していた(後藤康夫、北村隆、澤井清)。

狭山市青柳 ◇団地の一角の枝を切り落とされて丸裸の柳の木でアオゲラが4月14日から巣作りを始めました。17日現在、体の半分以上が入れる位になっています。人も車も通る、まったく開けた所で丸見えの状態です。近づいても(3m位)逃げません。あまりにも嬉しくそして驚いています(野口計子)。

坂戸市城山 ◇4月26日、クロジ1羽、藪から出て飛び上がり、木の枝にとまった(増尾隆・節子)。◇5月5日、キビタキ♂1羽、新緑の森に美声を響かせ、初夏の訪れを告げていた。ちょうどこの日は、立夏。センダイムシクイ1羽、さえずりながら枝移りしていた(増尾隆)。

比企郡玉川地内 ◇5月22日午後1時40分、都幾川に架かっている坪ノ内橋上流200m~300m付近、雀川の合流との間でオシドリ♂3羽♀3羽、土手の上から30m位の距離で逃げなかった。1週間位前からいるようです。他にカワセミ1羽、ホトトギス多数の鳴き声(サイトウシゲル)。

上尾市丸山公園 ◇3月22日、北駐車場側の近くでクイナ1羽(福田英子)。

さいたま市中尾 ◇3月19日、ウグイスのさえずり(藤原寛治)。

さいたま市新宿 ◇3月24日午前7時40分頃、ツバメ2羽、初認。5月7日午前7時40分頃、ツミ♂1羽、ツバメ3羽にモビングされていた(藤原寛治)。

さいたま市大崎 ◇自宅前の畑のやや朽ちかけた高さ1m位の木の上の方に3月下旬からコゲラが穴を掘り始め、営巣を始めた。5月13日、巣穴からヘビのしっぽが30cm位出ていた。驚いて行って見ると巣穴の中でとぐろを巻いているヘビが見えた。木を叩いたら、腹の膨らんだアオダイショウが出てきた(高橋真一)。

さいたま市秋ヶ瀬 ◇4月1日、チョウゲン



カイツブリ(編集部)

ボウ♀1羽、荒川河川敷NTTサッカーグラウンドの照明塔の上にとまったり、田んぼの上でホバリングしていた。第8ソフト場脇のムクゲの枝でモズ1羽、どちらも2年前から縄張りにしていて時折見かける(志賀敢)。◇4月18日、大久保農耕地A区の水の入り始めた田んぼでオオジシギ1羽、ムナグロ4羽。対岸の志木市側の水田でムナグロ約40羽(鈴木紀雄)。◇4月20日、大久保農耕地で水の入り始めた田んぼでムナグロ15羽(小林ますみ)。

さいたま市日進町1丁目 ◇4月11日、イカル1羽、澄んだ声でさえずっていた。ビンズイ2羽、桜の枝でヒバリののようにさえずっていた。シロハラ5羽、アカハラ2羽(浅見健一)。

さいたま市三橋5丁目 ◇4月11日、鴨川第一調節池でイワツバメ15羽以上、水門橋梁に巣作り中。コチドリ1羽、鳴きながら飛び回っていた。セッカ1羽、上空でさえずり、ユリカモメ2羽(1羽夏羽)、バン1羽、カイツブリ1羽。コサギ1羽、目先うすピンク(浅見健一)。◇4月11日、三橋運動公園でアオジ3羽、1羽さえずる(浅見健一)。

さいたま市大谷 ◇4月13日午後4時頃、環境広場の草はらで採餌するクサシギ1羽、タシギ5羽、コチドリ7羽。他にツグミ約20羽、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ。タヒバリは胸が赤味を増してきた(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼 ◇5月17日午前11時頃、カッコウが鳴いていた(藤原寛治)。

蓮田市黒浜 ◇4月3日午前8時30分頃、ゴルフ場の森遥か上空でオオタカ1羽が輪を描きつつ舞っていた。林内樹冠をマヒワ約



ムナグロ(編集部)

20羽が飛んでいった。黒浜療養所内でマヒワ3羽、木の新芽をついばんでいた。4月13日午後2時頃、黒浜沼南側の畑でムナグロ17羽。4月18日、黒浜沼でコアジサシ1羽(鈴木紀雄)。

戸田市道満彩湖 ◇4月7日、コアジサシ1羽、ヨシガモ7羽(菱沼一充)。

川口市差間 ◇4月9日午後1時30分頃、イワツバメ1羽、腰の白さ鮮やか(鈴木紀雄)。

春日部市内牧 ◇4月10日午前9時30分頃、シロハラ3羽、アカハラ1羽。小さな林の緑で「キ、キ、キ」と鋭い声。オオタカか?と探したところ、アリスイが木の穴に出入りしたり、木をよじ登ったりしていた(鈴木紀雄)。

宮代町 ◇4月18日、林内でフクロウ。音もなく飛び、木にとまった。同時ではなかったが、状況判断では2羽いた模様(鈴木紀雄)。

松伏町上赤岩 ◇4月20日、ムナグロ約200羽(中村治)。

幸手市木立 ◇5月20日、ひばりが丘桜泉園(ゴミ焼却場)の煙突でチョウゲンボウ(秋間利夫)。

幸手市権現堂 ◇5月20日、桜堤でカッコウ1羽(秋間利夫)。

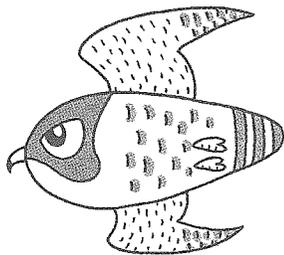
表紙の写真

コアジサシ(チドリ目カモメ科アジサシ属)

いつもの大久保農耕地の農道を、風に吹かれながら自転車で走っていたら、キリッキリッとコアジサシの声。いいですね、日本の夏。どこかで聞いたことがあるようなセリフをつぶやきながら、レンズを向ける。いるところに行けば山ほどいる鳥だけど、田んぼの緑をバックに飛ぶ姿は、ひときわ優しく美しい。コアジサシは大久保農耕地に限るのだ。

自転車の鳥見人(さいたま市)

行事あんない



(何森 要)

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月1日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時30分、板倉町総合運動場入口。

交通：東武日光線新越谷7:15→春日部7:29→栗橋7:54→板倉東洋大前8:06着。JR宇都宮線大宮7:08→栗橋7:43着にて、東武日光線乗り換え。

解散：午前11時30分ころ、親水ゾーンにて。

担当：橋口、高(文)、玉井、内田、高(剋)、田邊、中里

見どころ：夏の湿地の鳥、オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヨシゴイ、ササゴイを堪能します。珍しいサギに出会うかも知れません。

暑い時期なので帽子と水筒、雨具の用意も忘れずに。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：島田、森本、中里、倉崎、松本、高橋、後藤、藤田

見どころ：七月の空にチョウゲンボウ、ハチクマが舞う。木陰にキジが休む。荒川土手にノカンゾウが咲く。水辺には夏期限定ササゴイ、コアジサシ。ファミ

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

りー出演でのバン、カイツブリも楽しめるはず。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、若林、兼元、森(力)、清水、小菅

見どころ：昨年の7月の探鳥会は梅雨の合間の暑い日だった。暑さに負けずに参加したらコアジサシが4羽出現。そんないいこともある夏の日。桜並木の下を歩いて夏を感じよう。そして鳥たちにも会いたい。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月15日(日)

集合：午前9時40分、森林公園南入り口前。

交通：東武東上線川越8:37→森林公園駅下車、森林公園南口行き9:17発バスにて、終点下車。

費用：入園料400円(子供80円)

担当：佐久間、藤掛、内藤、青山、島田、喜多、後藤、石井(幸)

見どころ：梅雨明けの暑いときですが、緑の多い公園は、わたる風で意外と涼しく、シジュウカラ、ホオジロなどの小鳥たちも元気です。もちろん国蝶のオオム

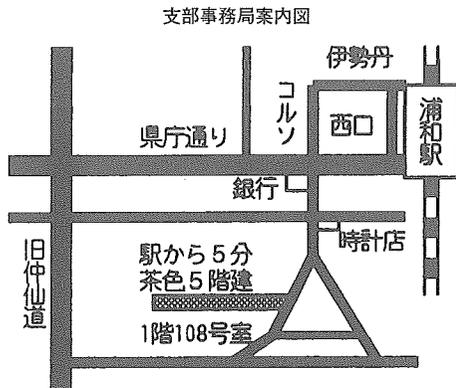
ラサキも見られ、ヤマユリも咲き始めるころです。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月21日(土) 1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：野山に飛び出したい最高の季節。夏の計画をたてる時には、袋づめの会もお忘れなく！『しらこぼと』も安心して飛び出せます。



狭山市・入間川定例探鳥会

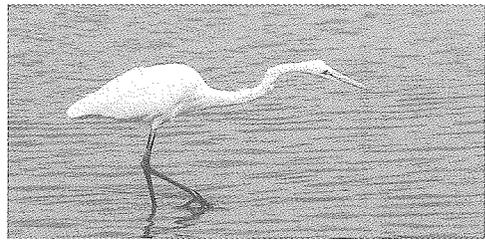
期日：7月22日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井(幸)、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光

見どころ：暑くて鳥の少ない夏。それでも7月は平均26種の鳥が観察されている。少ない種類をよーく見てみよう。帽子と水は必携。それに暑さに負けない体で参加してください。



ダイサギ 外園たけの(春日部市)

2001年GWの対馬

逸見 嶮(吹上町)

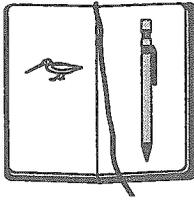
「対馬のホームページ情報によるとGW前半はシギ・チドリとセキレイ類が出ているそうですよ」とのこと。資料をのぞかせてもらってよるこんでしまった。(いいぞ、いいぞ!! コシャクシギの名前がある。私にとってのニューバードだ。対馬での3日間が楽しいといいな)。

ルンルン気分で対馬空港へ向ったが途中気流の関係で飛行機が大分遅れてしまった。これでは佐護での探鳥があまり出来ないではないか…。イヤな予感を持ちながらやっとのことで対馬空港へ着いての第一報はやっぱり予感的中。「今年是对馬らしい鳥は何も出ていません。どうしようもない年です」だってさ。イヤな予感ほど当たらない方がいいのにとはやる心で佐護の田圃へ急ぐ。着くともう夕刻5時をまわっていた。遅くまでねばってみたがダメ。いいさ明日にかけようという事で初日の探鳥を終りにした。

鳥見の朝は早い。そして今年の特馬はやけに寒い。パーカーに手袋をしてしまった。この寒さで鳥が出ないのか?翌朝は「舟志」で探鳥するもやっぱり出ないので1時間程で移動してみる。去年ここでシマノジコ。あそこでヤマショウビンが出たのに…などと思いつつながら歩くからかやけに疲れてしまう。

それでも3日間のうちには対馬らしい鳥も少しは出てくれたので夜の酒のうまかったことうまかったこと。皆んなでヤマネコを2匹もやっつけてしまったのです(焼酎の名前です)。

きれいだったホオジロハクセキレイ、可愛いかったタイワンハクセキレイ、黒と黄色のコントラストが美事だったシベリアアツメナガセキレイとキタツメナガセキレイがとても印象的だったけれど、他の人達が見られたのに私が見られなかったシマアオジが一寸残念。それに情報にあったコシャクシギはどこへ行ってしまったのか。本当に小癪なシギだなお前は、などと思いつつながら空港で飲んだビールはやけにきいてしまった。



行事報告

2月11日(日) 大宮市 大宮市民の森

参加: 66人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ チョウゲンボウ キジクイナ バン タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 風もなく、早春のおだやかな日和の中、開始する。芝川沿いに出ると出現鳥も増え、チョウゲンボウ、カワセミ、オオジュリン、クイナが観察され、大いに場が盛り上がった。主要新聞2紙に行事案内が掲載されたためか、参加者が多く、入会パンフレットも10部出た。(工藤洋三)

2月25日(日) 富士見市 柳瀬川

参加: 57人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ オンドリ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ イカルチドリ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロカモメ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 温かい日と寒い日が交互の季節。強い北風に向かって、期待するタゲリを探すが見あたらない。オンドリ早は初出現。タヒバリ、アオジ、カモ類を後に先を急ぐと、日だまりの中州でタシギが待っていた。タゲリは秋の飛来を楽しむにしよう。(高草木泰行)

3月4日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 15人 天気: 雨

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ トビ イソシギ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ エナガ シジウカラ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (15種) リーダー集合時は小雨模様。中止かどうか判断に迷っているところに県南の方を含め15名もの方々が集まった。小雨の中、玉淀河原に向かうが、河原に着いたときは本格的に降り出したため、解散を決定した。(小池一男)

3月4日(日) 加須市 はなさき水上公園

雨のため中止。

3月4日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園

参加: 10人 天気: 雨

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ バン キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 雨が開始頃からとうとう本降りになってしまった。リーダーを含め10名の参加者があり、相談の結果1時間位にコースを短縮し、足元に充分注意することをお願いして実施した。見沼自然公園の池でカモたちを観察し、最後にシメが出現して変な落ちがつき、雨の中で鳥合わせをして終了。(工藤洋三)

3月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 47人 天気: 晴

ダイサギ カルガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ セグロカモメ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 出発時より鳥の声が聞こ

えず異様な感じだったが、ノスリがカラスの大集団に追いかけられ、低空で森に飛び込む様子が見られ、やっと盛り上がった。野鳥の森の池で先月ごく少数の人が見られたミヤマホオジロは、今回もごく少数の人に限られた。その後出てくれたベニマシコは、かなりの人が間近で見られ、最後を飾ってくれた。(和田康男)

3月11日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加：32人 天気：晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ
コガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジ
ロ チョウゲンボウ イソシギ ユリカモメ セ
グロカモメ シラコバト キジバト カワセミ
ヒバリ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モ
ズ ツグミ メジロ カワラヒワ スズメ ムク
ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種)
手違いで支部報と『野鳥』誌の集合時間が1時間
ずれていて、ご迷惑をおかけした。シラコバトが
見られる探鳥会として2シーズン目を迎え、県外
からも参加者があった。今回は風のためか前回に
比べ個体数は少なかったが、ゆっくりと観察でき
た。人工の池や林でも通算で44種と毎回新顔が登
場してくれる。これからも楽しみな松伏だ。

(橋口長和)

3月11日(日) 松伏町 シラコバト調査

参加：17人 天気：晴

内田孝男、海老原教子、海老原美夫、大塚操、小
菅靖、四分一保雄、高剋法、高文子、田邊八州雄、
玉井正晴、田村弘之、網藤敏郎、中里裕一、橋口
長和、本田修二、吉岡明雄、渡辺嘉男◆シラコバ
トの動きは少なかったが、活発な動きをするのが
午前と午後に分かれ、昼の動きが鈍くなるようだ。
風が強くて寒い日でしたが、皆さんありがとうございました。
(橋口長和=シラコバト見つけ隊)

3月17日(土) 行田市 シラコバト調査

参加：16名 天気：曇後雨

海老原教子、金子昭三、黒野ふき子、四分一保雄、
杉山恵次、高剋法、高文子、田邊八州雄、玉井正
晴、田村弘之、中里裕一、橋口長和、逸見嶮、本
田修二、善積理子、和田康男◆行田市古代蓮の里
公園に集合後、調査地ごとに分かれたすぐ後、約
80羽のシラコバトが空を埋めた。餌場の牛舎に人

が入って驚いたらしい。雨で中断となったが、5
時間の調査に協力いただいた皆さんありがとうございました。
(橋口長和=シラコバト見つけ隊)

3月17日(土)『しらこばと』袋づめの会

ボランティア：12人

荒木恒夫、伊藤泰一郎、内田孝男、尾崎甲四郎、
倉林宗太郎、島田貴子、成瀬慶一、藤野富代、増
尾隆、宮地豊造、百瀬修、渡辺嘉男

3月18日(日) 長瀬町 宝登山

参加：27人 天気：快晴

カワウ オオタカ コジュケイ キジバト コゲ
ラ ツバメ イワツバメ セグロセキレイ ヒヨ
ドリ ジョウビタキ ツグミ エナガ ウグイス
シジュウカラ ホオジロ アオジ アトリ カワ
ラヒワ ベニマシコ ウソ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 鳥の数
こそ少なかったが、アカウソをじっくり観察でき
た。さらに上空をツバメ、イワツバメ、オオタカ
が飛んでくれた。鳥以外には、トウキョウサンシ
ョウウオの卵やツノハシバミとウグイスカグラの
花も観察でき、春を実感できた。スギ花粉が大量
に飛散する中、目をこすり、鼻をすすりながらも
最後まで歩いた参加者、リーダーの方々は本当に
大変だった。ご苦労様。(小池一男)

3月18日(日) 浦和市 三室地区

参加：47人 天気：一時雨後曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ コガモ オナガガモ オオタカ
チョウゲンボウ バン クイナ イソシギ クサ
シギ タシギ コチドリ ユリカモメ セグロカ
モメ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ ハ
クセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウ
ビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオ
ジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワ
ラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハ
シブトガラス (39種) ひとときの雨が通り過ぎて
雨上がりの探鳥会であった。雨上がりには鳥が多
く出るとのことで、そのとおりに出現。ひさしぶ
りのクサシギ、初認のツバメ、クイナの水辺のか
けっこ。今回も新しい人たちが半数、恒例の黄色
のリボンが大活躍した。風もなく、楽しい探鳥会
であった。(楠見邦博)

連 絡 帳

●総会の記念講演

6月号9ページでお知らせした6月24日午後1時30分から、さいたま市民会館うらわで開催される支部総会。記念講演は、本部サンクチュアリセンターの山本裕氏による「三宅島の野鳥は今」と決まりました。

全島避難後の状況を調査した樋口広芳東大教授の報告とスライド写真などを交えて、野鳥たちに対する影響などを講演します。

●鳥獣保護区拡大の意見書提出

平成13年5月11日付け、さいたま市環境部環境総務課から、第8次鳥獣保護事業計画に基づく、荒川南部鳥獣保護区の設定区域の拡大に対する意見照会がありました。

これは、羽根倉橋から秋ヶ瀬橋までの荒川河川敷に限られていた鳥獣保護区を、彩湖をすっぽり含む笹目橋まで拡大するという計画です。

5月20日の役員会議で検討し、支部として拡大計画に賛成し、更に拡大することを希望する意見書を提出しました。

●会員の普及活動

5月6日(日)、日高市の平成13年度自然観察会(本年2回目)が女影(おなかげ)地区仙女ヶ池周辺でバードヒアリングをテーマに開催され、吉田時規(日高市)、石井幸男(川越市)、増尾隆(坂戸市)のリーダー・会員らが指導案内役をつとめました。

連休最終日で参加者の数が心配されましたが、26名が参加、新緑の風の中で、オオヨシキリの声に感激してくれたとのことでした。

●7月の事務局 土曜と日曜の予定

- 1日(日) シラコバト見つけ隊。
- 7日(土) 編集部会議。研究部会議。
- 14日(土) 8月号校正。
- 15日(日) 役員会議。
- 21日(土) 袋づめの会。

●会員数は

6月1日現在2,816人です。

活 動 報 告

- 5月6日(日) 編集部会議(通常土曜日のところ、連休なので日程変更。6月号編集作業)。
- 5月12日(土) 6月号校正(海老原美夫、大坂幸男、桜庭勇、藤掛保司)。
- 5月20日(日) 役員会議(司会:倉林宗太郎、各部の報告・野鳥の会の支部補助金申し込み見送り決定・数箇所の学校公民館からの指導依頼への対応・総会準備としての決算予算案や事業報告事業計画案の検討・次期役員候補に関する話し合い・その他)。
- 5月21日(月) 6月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

編 集 後 記

勤め先の庭に8畳程度の池がある。

今年、そこで初めてギンヤンマのヤゴの抜け殻を見つけた。少年時代に夢中になって追っかけたあのギンヤンマだ。その色、大きさ、かっこよさ、捕獲の難しさ、どれもほかのトンボとは格が違っていた。捕れた日は、ヒーローだった。

5月21日から6月2日現在まで、14個体分を数えている。(山部直喜)

しらこぼと 2001年7月号(第207号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
〒336-0012 埼玉県さいたま市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608
本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社